

危機管理会議

日 時：令和5年5月31日（水） 10:00 から

場 所：県庁3階 特別会議室

協議事項

北朝鮮の「人工衛星」と称する弾道ミサイル発射に係る対応について

危機管理会議 配席図

令和5年5月31日10:00～

マ
ス
コ
ミ

危機管理環境部
次長

危機管理環境部
副部長

政策創造部次長

環境管理課長

秘書課
県政広報幹

総合政策課長

警察本部警備部
警備課長

総務課長

教育委員会
教育政策課長

未来創生政策課長

病院局 総務課長

保健福祉政策課長

企業局
経営企画戦略課長

商工政策課長

県土整備政策課長

農林水産政策課長

テレビ会議

南部総合県民局
地域創生防災部長

西部総合県民局
地域創生観光部長

出
入
口

令和5年における北朝鮮によるミサイル発射事案の経過

年	月日	概要
2023年 (令和5年)	1月1日 ①	1日2時50分頃、北朝鮮西岸付近から、1発の弾道ミサイルを東方向に発射し、最高高度約100km程度で、約350km程度飛翔し、朝鮮半島東岸付近の我が国の排他的経済水域(EEZ)外に落下したと推定。
	2月18日 ②	18日17時21分頃、平壤近郊から、1発のICBM級弾道ミサイルを、東方向に発射し、約66分飛翔し、18時27分頃、北海道の渡島(おしま)大島の西方約200km、日本海の我が国の排他的経済水域(EEZ)内に落下したものと推定。飛翔距離は約900km、また最高高度は約5,700km程度と推定。
	2月20日 ③	20日7時頃、北朝鮮西岸付近から、2発の弾道ミサイルを東方向に向けて発射し、朝鮮半島東側の日本海、我が国の排他的経済水域(EEZ)外に落下したと推定。 ① 6時59分頃発射し、最高高度約100km程度で、約400km程度飛翔。 ② 7時10分頃発射し、最高高度約50km程度で、約350km程度飛翔。
	2月23日 ④	北朝鮮は、戦略巡航ミサイル「ファサル2型」4発を日本海に向けて発射する訓練を行ったと発表。
	3月9日 ⑤	韓国軍によると、北朝鮮は、9日午後6時20分頃、西部のナンポ(南浦)付近から朝鮮半島西側の黄海に向けて短距離弾道ミサイルを発射した。
	3月12日 ⑥	韓国軍によると、北朝鮮は、12日朝、東部のシンポ(新浦)付近の海上の潜水艦からミサイルを発射した。北朝鮮は、戦略巡航ミサイルについて、初めて、潜水艦から発射したと発表した。
	3月14日 ⑦	韓国軍によると、北朝鮮は、14日7時41分頃から51分頃にかけて、南西部のファン(黄海)南道チャンヨン(長淵)付近から日本海に向けて短距離弾道ミサイル2発を発射したと発表した。
	3月16日 ⑧	16日7時9分頃、平壤近郊から、1発のICBM級弾道ミサイルを、東方向に発射し、約70分飛翔し、8時19分頃、北海道の渡島(おしま)大島の西方約200km、日本海の我が国の排他的経済水域(EEZ)外に落下したものと推定。飛翔距離は約1,000km、また最高高度は約6,000kmを超えると推定。
	3月19日 ⑨	19日11時5分頃、北朝鮮西岸付近から、1発の弾道ミサイルを東方向に向けて発射し、最高高度約50km程度で、約800km程度飛翔し、朝鮮半島東側の日本海、我が国の排他的経済水域(EEZ)外に落下したと推定。
	3月22日 ⑩	韓国軍によると、北朝鮮は、22日10時15分頃、東部のハムギョン(咸鏡)南道ハムン(咸興)付近から日本海に向けて巡航ミサイル数発を発射した。
	3月27日 ⑪	27日7時台、北朝鮮西岸付近から、2発の弾道ミサイルを北東方向に向けて発射し、朝鮮半島東側の日本海、我が国の排他的経済水域(EEZ)外に落下したと推定。 ① 7時47分頃発射し、最高高度約50km程度で、約350km程度飛翔。 ② 7時57分頃発射し、最高高度約50km程度で、約350km程度飛翔。
	4月13日 ⑫	13日7時22分頃、北朝鮮平壤付近から1発のICBM級の弾道ミサイルを、東方向に向けて発射。当該弾道ミサイルは、約1,000km程度飛翔し、日本海のわが国のEEZ外に落下したものと推定。 なお、7時55分に、「ミサイルが8時00分頃、北海道周辺に落下するものとみされる」旨のJアラートが発表されており、その後、8時16分エムネットで、「北海道及びその周辺への落下の可能性がなくなった」と訂正。
	5月31日 ⑬	<u>31日6時30分頃、北朝鮮は「人工衛星」と称する弾道ミサイルを発射。これを受け、6時30分に、Jアラートにて、沖縄県に対し、ミサイルの発射情報が発表された後、7時4分に、我が国には飛来しないものとみられ、避難の呼びかけを解除するとの発表がなされた。韓国メディアによると、当該弾道ミサイルは、飛行中にレーダーから消失したと報じられている。</u>

危機管理会議コメント（ミサイル発射）

弾道ミサイル発射後午前7時10分現在、「モニタリングポストによる放射線量（空間放射線量率）」の測定結果は、通常の範囲であり、発射前から変化なく、本県の大気環境には現在のところ影響はないと考えられる。

引き続き、監視を続け、測定結果に異常値があれば直ちに報告します。

放射線量

空間放射線量率 ($\mu\text{Sv/h}$)	発射前	発射後
	午前6時20分	午前7時10分
徳島市 徳島保健所屋上	0.040	0.043
鳴門市 鳴門合同庁舎	0.054	0.057
美波町 南部総合県民局美波庁舎	0.055	0.055
三好市 池田総合体育館	0.058	0.058

徳島市：0.067 $\mu\text{Sv/h}$ を超えると対応指針レベルⅡへ移行
対応指針：原子力発電所災害対応指針